

会議議事録

事業名	令和7年度 第1回 教育課程編成委員会
学校名	学校法人 国際総合学園 新潟デザイン専門学校

会議名	学校関係者評価・教育課程編成委員会会議（第1回）
開催日時	令和7年3月13日（木） 16:00～17:30
会場	ホテルイタリア軒（新潟市中央区西堀通7番町1574）
出席者	新保 悟（ジャムルクルー株式会社） 齋藤 秀一（NPO法人 アジアクラフトリンク 理事長） 渡辺 淳一郎（株式会社アイディ・東和 取締役営業部長） 高田 哲雄（文教大学 教授） 白井 剛暁（DESIGN DESIGN 代表） 浅野 勝利（株式会社T00） 落合 剛之（株式会社TAMBO 代表取締役） 澁谷 敏（シブヤカメラ） 関本 大輔（株式会社アドハウスパブリック） 伊藤 真一（アイプラス） 竹田 一紀（画家） 加藤 一人（新潟デザイン専門学校 学校長） 畑野 裕美（新潟デザイン専門学校 副校長） 宝福 大志（教務部長／美術・造形デザイン科 学科長） 永井 啓司（就職相談室室長／雑貨・ジュエリーデザイン科 学科長） 羽田 裕之（写真デザイン科 学科長） 笠原 雅人（グラフィックデザイン科 学科長） 藤田 美結（イラストレーション科 学科長） 長谷川 友也（キャラクターイラストデザイン科 学科長） 加納 洋太（デジタルデザイン科 学科長） 北川 菜智（事務局長） <p style="text-align: right;">（出席者 21名）</p>
欠席者	なし

<p>会議内容</p>	<p>(1) 学校長挨拶 学校長 加藤より職業実践専門課程について及び教育課程編成委員会設置についての趣旨説明・役割の重要性についてなどを話し、開会挨拶とした。</p> <p>(2) 本日の出席者紹介 副校長 畑野より企業等委員及び本校委員が紹介された。</p> <p>(3) 本校の現状報告 副校長 畑野より学校方針/教育目標/教育実績/運営報告等の説明がされた。</p> <p>(4) 企業プロジェクト、進路決定、コンペ受賞等について、令和6年度下期の結果について、副校長 畑野より全校の報告を行った。</p> <p>(5) 本校カリキュラム・教育実績報告（コンテスト入賞・進路決定報告・産学連携報告など）について各学科から令和6年度下期実績報告と現状報告がされた。</p> <p>① グラフィックデザイン科（笠原学科長） ② 写真デザイン科（羽田学科長） ③ イラストレーション科（藤田学科長） ④ キャラクターイラストデザイン科（長谷川学科長） ⑤ 美術・造形デザイン科（宝福学科長） ⑥ 雑貨・ジュエリーデザイン科（永井学科長） ⑦ デジタルデザイン科（加納学科長）</p> <p>(6) 質疑応答・意見</p> <p>① グラフィックデザイン科 新保：インスタグラムなどのSNSに特化したコンテストなどがあれば、積極的に開拓、チャレンジしてみてもどうか。 笠原：グラフィックの分野に限らず幅広いジャンルで積極的なコンペ参加を促している。応募や参加することの意義を指導し、実績に繋がるようフォローしていく。</p> <p>② 写真デザイン科 高田：SNS用広告写真の企業連携報告を受け、写真が使用される広告媒体も急加速度的に変化していることを感じた。企業側に対して提案を積極的に行っていくとよい。 羽田：学科としてもSNSには今後も力を入れていきたいツールだと感じている。そのためにも、カメラの基礎や構図など、リアルな授業科目の充実も図っていく。</p> <p>③ イラストレーション科 竹田：デジタル表現を好みとする学生が増えているからこそ、表現における基本のデッサンやクロッキーなど、アナログな部分の指導を大事にしてほしい。</p> <p>④ キャラクターイラストデザイン科 浅野：企業連携の報告から学生自体の持つ潜在的な表現能力に驚いた。他学科で意見が出たように、発信にもSNSを積極的に活用し、PRの更なる充実を図るとよい。</p> <p>⑤ 美術・造形デザイン科 白井：NFTアートなど、新しいプラットフォームもこれからは無視できない。アートの分野もSNSを活用した発信の仕方を授業に取り組んでいくと良いのではないかと。</p>
-------------	--

⑥ 雑貨・ジュエリーデザイン科

齋藤：提供したデザインが製品化され、海外でも販売されている実績はとても貴重。
グローバルな視点を大切にして、学科の強みとして取り組みを強化してほしい。

永井：学生たちにも連携の規模感をしっかりと伝え、世界的に活躍できる人材育成を目指して指導していきたい。

⑦ デジタルデザイン科

加納：産学連携など実践的な授業を充実させ、業界就職を意識したスキルと人間力の育成指導を引き続き行っていきたい。

※その他

(7) 次年度の委員会及び次回委員会開催日程(8月中を予定)に関して委員の都合を再確認し連絡する事になった。

以上

会議議事録

事業名	令和7年度 第2回 教育課程編成委員会
学校名	学校法人 国際総合学園 新潟デザイン専門学校

会議名	学校関係者評価・教育課程編成委員会会議（第2回）
開催日時	令和7年8月21日（木） 16:00～17:30
会場	ホテルイタリア軒（新潟市中央区西堀通7番町1574）
出席者	新保 悟（ジャムルクルー株式会社） 齋藤 秀一（NPO法人 アジアクラフトリンク 理事長） 渡辺 淳一郎（株式会社アイディ・東和 取締役営業部長） 高田 哲雄（文教大学 教授） 白井 剛暁（DESIGN DESIGN 代表） 浅野 勝利（株式会社T00） 落合 剛之（株式会社TAMBO 代表取締役） 澁谷 敏（シブヤカメラ） 関本 大輔（株式会社アドハウスパブリック） 伊藤 真一（アイプラス） 竹田 一紀（画家） 加藤 一人（新潟デザイン専門学校 学校長） 宝福 大志（教務部長／美術・造形デザイン科 学科長） 永井 啓司（就職相談室室長／雑貨・ジュエリーデザイン科 学科長） 羽田 裕之（写真デザイン科 学科長） 笠原 雅人（グラフィックデザイン科 学科長） 藤田 美結（イラストレーション科 学科長） 長谷川 友也（キャラクターイラストデザイン科 学科長） 加納 洋太（デジタルデザイン科 学科長） <p style="text-align: right;">（出席者 19名）</p>
欠席者	畑野 裕美（新潟デザイン専門学校 副校長） 北川 菜智（事務局長） <p style="text-align: right;">（欠席者 2名）</p>
会議内容	（1）学校長挨拶 学校長：加藤より今年度上期スタート時の状況報告、新規募集学科と次年度の校舎移転についてなどを話し、開会挨拶とした。 （2）本日の出席者紹介 教務部長 宝福より企業等委員及び本校委員が紹介された。 （3）教育内容の状況説明 教務部長 宝福より上期の教育目標/教育実績/運営報告等の説明がされた。

(4) 学校行事・イベントの報告

教務部長 宝福より今年度上期の全校行事・イベント・研修について、実施内容とその成果、退学抑止の現状について報告がされた。

(5) 本校カリキュラム・教育実績報告（コンテスト入賞・進路決定報告・産学連携報告など）について各学科から前年度実績報告と現状報告がされた。

- ① グラフィックデザイン科（笠原学科長）
- ② 写真デザイン科（羽田学科長）
- ③ イラストレーション科（藤田学科長）
- ④ キャラクターイラストデザイン科（長谷川学科長）
- ⑤ 美術・造形デザイン科（宝福学科長）
- ⑥ 雑貨・ジュエリーデザイン科（永井学科長）
- ⑦ デジタルデザイン科（加納学科長）

(6) 質疑応答・意見

① グラフィックデザイン科

笠原：得意・不得意が学生によってあるかと思うが、検定科目については検定の目的やその成果を学生に説明し、目標設定を行うよう指導を行った。就職活動においても個別の指導を実践し、下期の結果に繋がるよう担任、副担任で連携していく。

白井：就職活動時の作品集について、ブラッシュアップをどのタイミングで実施していくか、企業に合わせて作品の構成を替えられるなど事前の準備ができると、ゆとりのある就職活動に繋がるようにも思うがどうだろうか。

笠原：下期の進路指導に向け、意見を参考に指導を実践し、結果に繋げていく。

② 写真デザイン科

高田：幅の広い撮影手法を全員が学んでおり、撮れないシーンがないという学生もいると聞いた。将来的に面白い人材になってくれると感じる。

③ イラストレーション科

竹田：業界での就職活動時にはポートフォリオの充実がとても重要。作品の入れ方やまとめ方を工夫できるように指導を入れてほしい。

④ キャラクターイラストデザイン科

浅野：キャラクター分野は様々なシーンや媒体で求められる表現が異なる。表現の幅を広げるため、知識として他者の作品に多く触れる機会をつくってほしい。作品の著作についても知識が求められるため、著作権の扱いはキャラクターに限らず、すべての学科で学びを深めてもらいたい。

宝福：昨今、デザインやアート分野で著作権のトラブル報道がされている。著作権は検定試験も全学科2年生で受験しているが、実生活や社会に出た際に必要不可欠なものであるため、資格取得を目的とするだけでなく、今一度、職員全員が著作について理解を深め、学生指導で活かしていきたい。

⑤ 美術・造形デザイン科

高田：コンテストや作品展への出展を積極的に行い、作品展示の仕方なども授業の一環として取り入れてみてはどうか。

⑥雑貨・ジュエリーデザイン科

渡辺：金属加工だけでなく、木工やステンドグラス、革製品など、幅広く技術を学んでいることが説明から伝わった。学生の強みへつながらるような指導と情報発信等の工夫を期待する。

⑦ デジタルデザイン科

加納：前回会議で出た意見の反映状況について報告。YouTube アニメーション動画制作やテレビ番組のオープニングムービーのリデザインなど、企業連携も積極的に行っている。学科の認知に繋がるよう、PRの充実を図りたい。

※その他、全学科共通

- ・ 上期及び現状までの退学抑止の現状、在籍数について等
- ・ 産学連携、コンペ応募、受賞についての現状報告。
- ・ 資格、検定試験についての現状報告。

(7) 次年度の委員会会議開催日程(3月中を予定)に関して、委員の都合を確認し連絡する事になった。

以上